

漢文 唐詩〈三〉

## 涼州詞

王翰



講師  
渡辺 恭子

理解を深めるために

### ■学習のねらい■

「唐詩」の三回目。今回は、西域のエキゾチックな風物と、「戦争」に従軍した兵士の哀感とを描いた、王翰の「涼州詞」を学習します。国境付近に出征し、明日の命をも知れない状態にある兵士の気持ちを考えましょう。また、「唐詩(近体詩)のきまり」も確認します。

\*

\*

\*

### 「涼州詞」の内容を理解する

題名の「涼州詞」とは、涼州(甘肅省武威市一帯)のあたりでうたわれていた歌曲の題名です。宮中に献上され、詩人たちは、この曲に合わせてさまざまな詩を作りました。涼州の地は、他国からの進入を防ぐ「防衛の拠点」として重要な場所でした。ですから、涼州には、多くの兵士が派遣されたわけです。王翰の「涼州詞」は、そんな西域に赴いた兵士たちの哀感をうたっています。

ここに出てくる重要語句の意味を理解しましょう。

### ■語句の意味

- 葡萄酒の美酒……………上等なワイン
- 夜光の杯……………ここでは、シルクロードを経て渡ってきた玉(宝石)またはガラスで作った杯のこと。  
たはガラスで作った杯のこと。
- 飲まんと欲して……………飲もうとして
- 琵琶……………大きな茄子の形をした平たい胴に、四つ、または五つの弦を張った楽器。ペルシャが発祥の地だといわれている。
- 催す……………せきたてる
- 沙場……………砂漠のこと
- 君……………世間の人々
- 古来……………昔から今に至るまで
- 征战……………戦争に行くこと
- 幾人か回る……………いったい、何人が無事に帰ったであろうか。

## 「涼州詞」を二つの視点から鑑賞する

### ① 「異国情緒」を漂わせる言葉

「涼州詞」には、異国情緒を漂わせる言葉が、多く使われています。「葡萄の美酒」「夜光の杯」「琵琶」などがその代表です。夜光の杯に、葡萄の美酒を入れて飲むという行為は、当時の中国人の日常にはない生活でした。これら「葡萄の美酒」「夜光の杯」は、目（視覚）で楽しむもの。そして、「琵琶」の音は、耳（聴覚）で楽しむものです。両者が合わさることで、私たちに独特の世界をイメージさせてくれています。

### ② 「この兵士は、どうして異国情緒にひたろうとするのか」

戦いを前にして、死というものを意識しないではいけない兵士が、せめてつかの間の快楽と酔いの中に、それらを忘れようとして、異国情緒にひたり込もうとしているのです。「涼州詞」は、異国情緒たっぷりの美しい情景を描きながら、戦争という、ぎりぎりの場に追いつめられた人間の深い悲しみ、兵士のやるせない感情を痛切に表現しています。

## 「唐詩（近体詩）のきまり」について

「峨眉山月の歌」と同じ形式です。確認してみましよう。

● 詩の形式……………「…七言絶句」

● 韻（押韻）……………「杯・催・回」

## 唐詩〈三〉

涼州詞

王翰

葡萄美酒夜光杯  
欲飲琵琶馬上催  
醉臥沙場君莫笑  
古來征戰幾人回

『唐詩選』

【現代語訳】……………

- ① 葡萄の美味しいお酒を、夜光の杯に注ぎ、
- ② 飲もうとすると、早く酒を飲み干せというように、琵琶が馬上で鳴り響く。
- ③ たとえ、酔いつぶれて（戦場である）砂漠に寝そべってしまっても、世間の人よ、笑わないでくれ。
- ④ 昔から今に至るまで、こうして遠く戦場に駆り出された兵士のうち、（いったい）何人が、（戦場から故郷に）無事に帰ったであろうか。

講師  
渡辺 恭子